

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	川口文化服装専門学校
設置者名	学校法人 文化学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾・家政 専門課程	服装科	夜・通信	180時間	160時間	
	服飾専攻科	夜・通信	80時間	80時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

『令和2年度 実務経験のある教員等による授業科目』という名称の資料を学園本部で閲覧。
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	川口文化服装専門学校
設置者名	学校法人 文化学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

『学校法人文化学園 役員名簿』という名称の資料として、学園本部で閲覧。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社員	H31. 4. 27 ～R5. 4. 26	法人の理事兼評議員として、事業・決算及び役員の選任、学校運営に関する審議
非常勤	無職	H31. 4. 27 ～R5. 4. 26	法人の理事兼評議員として事業・決算及び役員の選任、学校運営に関する審議
非常勤	自営業	H31. 4. 27 ～R5. 4. 26	学識経験者理事として、納付金・学則の変更、役員の選任に関する審議
非常勤	会社員	H31. 4. 27 ～R5. 4. 26	学識経験者理事として、納付金・学則の変更、役員の選任に関する審議
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	川口文化服装専門学校
設置者名	学校法人 文化学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 年度ごとの授業計画を作成するにあたり教職員会議を行い、科目・学年ごとの授業計画を決定している。シラバスの作成過程としては、各教科担当者内で話し合った内容をもとに全体で精査してシラバスの内容を確定している。新学期に備え、3月中に作成し、4月上旬(始業式前)に『〇〇年度 授業計画(シラバス)』という名称の刊行物として学園本部、および各教室にて閲覧可能とする。その後学校ホームページにて公表する。(※ホームページ公表は4月中を目安としているが、準備でき次第のため公表時期が遅れることがある)</p>	
授業計画書の公表方法	http://www.fashionbunka.jp/entrance/#applicants
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修成果の評価については評価方法・基準について別資料を用いてあらかじめ学生に配布、公表する。</p>	
<p>1. 成績評価方法</p> <p>成績評価方法に関しては別紙『2020年度授業計画(シラバス)』にて公表する。 ・「講義」の授業科目・・・日々の授業の出席状況・授業への取り組み姿勢、学期末試験及びレポート課題での取得点数により、授業内容の理解度をはかる。①「出席率(20%)」および②「試験・レポート(70%)」、③「授業姿勢・理解度(10%)」はそれぞれ5段階評価(A【100~80%】、B【79~60%】、C【59~40%】、D【39~20%】、E【19%以下、不可】)とする。 ・「演習・実習」授業科目・・・学年・学期ごとで到達目標として設定されている①「課題作品の完成度(70%)」、②「出席率(20%)」、③「授業姿勢・理解度(10%)」で評価を行う。実習課題の完成度は5段階評価とし、原則として以下の基準で成績を判定する。 A【①:かなり優れた完成度である、工夫がみられる/②・③:100~80%】、B【②:優れた完成度である/②・③:79~60%】、C【①:到達目標に達した完成度である/②・③:59~40%】、D【①:到達目標に及ばない完成度である、②・③:39~20%】、E【①:評価不可・未提出、②・③:19%以下】</p>	
<p>2. 成績評価基準</p> <p>成績評価基準別紙『成績評価について』にて公表する。当校ではシラバス内の評価方法をもとにGPA方式を用いて客観的な指標で各学生の成績評価基準を示す。</p>	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の基準および指標の算出方法は以下の通りである。

① 5段階での評価基準に基づく成績評価をポイント化する。(下表参照)

	評価	評点	ポイント
合格	A (秀)	100～80	4.0
	B (優)	79～60	3.0
	C (良)	59～40	2.0
	D (可)	39～20	1.0
不合格	E (不可)	19 以下	0.0

②成績評価の客観的な指標は以下の通り算出する。

{評価 A の (秀) の科目数×4.0+評価 B (優) の科目数×3.0+評価 C (良) の科目数×2.0+評価 D (可) の科目数×1.0} ÷履修科目数

- ・ 学年末の成績評価 E (不可) の科目については履修不認定として扱う。
- ・ 担当の教員による基準に基づいた成績評価を実施後、学期末に教職員会議を開催し理事長の承認を得て最終的な成績決定として学生に通知する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

『成績評価について』という資料を学園本部、各教室に配置し公表する

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校の教育方針である「服装に関する技術教育・職業実践教育と併行して教養と創造性の育成、常に変化していく現代社会にあって自らの在り方生き方を考え、主体的に行動し積極的に自己実現のできる人材育成」を実現するために、服飾・家政専門課程服装科および服飾専攻科の各科が設定した卒業要件科目の履修、そして各科で求められる知識、技術、資格等を身につけた学生に卒業を認定する。

本校の服飾・家政専門課程 服装科は2年間の課程修了者に対し「専門士」の称号が付与される。服装科の卒業認定および専門士称号付与に必要な要件は以下の通りである。

- ① 2年間の課程を修了していること
- ② 総授業時数1,800時間以上を履修すること
- ③ 試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること

【課程修了認定条件】

- ・卒業までの出席日数及び出席時数が70%以上であること
- ・学年末の成績で「E」判定が1つ以下の成績を修得すること
- ・課題作品をすべて制作及び提出すること
- ・全教科の期末試験を受験すること

- ④ 課程修了までに下記到達目標に達しているとみなされていること

- ・服飾造形の基礎知識を理解し、課題制作を通して服作りの技術と理論を習得している
- ・服飾のデザインにおける基礎知識と技術を身につけ、創造力・分析力を身につけている
- ・デザインを形にするための基本的な表現技術、オリジナルデザインの発想力を身につけている
- ・服飾、アパレル産業に係る歴史の変遷を理解し、これからの新時代に求められる服飾の在り方を考察する能力を習得している
- ・ファッションビジネスの基礎知識およびアパレル産業の構造や製品の流れを理解し、多角的視点でファッション業界に関する知識を理解している
- ・集団行動を通して集団の中の自己の在り方を客観的に見極め、「協調性」・「社会性」・「人間性」の向上につなげている
- ・作品制作を通して自己の発想内容を他者に対して表現し伝える手段を学び、実現できる

学年末に教職員による成績会議を開催し、上記認定要件を満たした学生について校長より課程修了の認定を得て正式な卒業認定及び専門士称号を付与する。

本校の服飾・家政専門課程 服飾専攻科の卒業認定に必要な要件は以下の通りである。

- ① 1年間の課程を修了していること
- ② 総授業時数900時間以上を履修すること
- ③ 試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること

試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること

【課程修了認定要件】

- ・卒業までに出席日数及び出席時数が70%以上であること
- ・学年末の成績で「E」判定が1つ以下の成績を修得すること
- ・課題作品をすべて制作及び提出すること
- ・全教科の期末試験を受験すること

④課程修了までに下記到達目標に達しているとみなされていること

- ・服飾造形の基礎知識を土台とし、課題制作を通してより応用的な服作りの技術と理論を修得している
- ・服飾のデザインにおける基礎知識と技術を身につけ、創造力・分析力を身につけている
- ・現代の多様なファッションの在り方の理解をふまえ、自己の発想力・表現力の更なる向上につなげている
- ・ファッションビジネスの実務を学び、将来を見据えアパレル企業全般の基礎知識を体系的に修得している
- ・集団行動を通して集団の中の自己の在り方を客観的に見極め、「協調性」、「社会性」、「人間性」の向上につなげている
- ・作品制作を通して自己の発想内容を他者に対して表現し伝える手段を学び、実現できる

学年末に教職員による成績会議を開催し、上記認定要件を満たした学生について校長より課程修了の認定を得て正式な卒業認定を行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

『卒業認定・学位授与に関する基本方針』を
<http://www.fashionbunka.jp/entrance/#applicants>にて公表

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	川口文化服装専門学校
設置者名	学校法人 文化学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	『平成31年度(令和元年度)財務計算書綴り』を学園本部で閲覧
収支計算書又は損益計算書	『平成31年度(令和元年度)財務計算書綴り』を学園本部で閲覧
財産目録	『平成31年度(令和元年度)財務計算書綴り』を学園本部で閲覧
事業報告書	『平成31年度(令和元年度)財務計算書綴り』を学園本部で閲覧
監事による監査報告(書)	『平成31年度(令和元年度)財務計算書綴り』を学園本部で閲覧

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		専門課程	服装科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800単位時間	540 単位時間	60 単位時間	1260 単位時間	0 単位時間	20 単位時間
			1880単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
75人		28人	24人	2人	3人	5人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要)
【専門課程服装科】
・「日本語」 留学生を対象として、他の講義・実習等の授業の理解を補助する目的で開講している。専門教材を利用して、日本語の文法・文章読解・漢字の読み書きを中心とした基本的な内容から、服飾に関する用語の理解等、専門分野の理解を深めることを目指す。
・「服飾造形論」
①服飾造形の基礎知識の習得(縫合の基礎、作図の基礎理論、体型観察)
②各アイテム制作を通し服作りの技術と理論の修得 (服の構造、デザイン表現、作図理論と方法、仮縫い補正方法、素材扱い、縫製方法)
③コーディネート実習

・「服装造形デザイン」「パターンメイキング」「服装造形ソーイング」

※「服装造形論」と組み合わせて理論－実習の流れで授業を行う。

- ①衣服製作のための用具：概説一般知識、用具一般知識
- ②衣服製作のための人体と計測：人体について、人体計測
- ③縫製の基礎：手縫い基礎、縫製機器について、ミシン基礎縫い（布端の始末）
- ④体型研究（パターン製作の基礎）：身頃原型作図、パターン操作法
- ⑤デザイン⇒作図⇒パターンチェック⇒縫い代付け⇒裁断⇒印付け⇒仮縫い⇒縫製の一連の制作過程を以下の課題を通して学ぶ。

1年次：一重スカート、シャツブラウス、パンツ、ワンピース、ショー作品

2年次：ジャケット・ボトムス、台衿付きシャツブラウス、ベスト、ワンピース、子供服、フォーマルウェア、ショー作品

・「服飾手芸」

1年次：各自のデザインで縫製道具の製作をし、物作り、手縫いの基礎を修得
ピンクッション、鉄ケース

2年次：服装造形論で製作した課題作品とのコーディネートを検討した小物類の製作
課題に適した素材、材料の選択の仕方

フォーマル作品を飾る副資材の選択、作り方、縫製の修得

・「服装デザイン論」：服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通し基礎的知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。

1年次：①服飾デザインについて

②デザインの定義

③デザインの基礎（基礎デザイン、形・色・素材、コンポジション）

④形態（点、線、シルエット、形の見え方）

⑤色彩理論（光、眼と色、三原色と混色）

2年次：①カラーシステム・カラーコーディネーション

②色彩の三属性

③配色の基礎

④色の見え方

⑤素材感

⑥コンポジション

・「西洋服装史」

1年次：服装の始まり、古代～中世～近世に至る西洋の服装の流れを理解する。

2年次：近世～近代～現代に至る西洋の服装の流れを理解する。

・「アパレル素材論」

1年次：アパレル産業の流れから繊維の種類、用途、性質などの知識の修得。

2年次：アパレルの主素材である繊維の種類、用途、性質などの知識の修得。

・「アパレル品質論」

1年次：アパレルの品質管理の基礎知識を学び、生産管理者に必要なアパレル製品の評価方法を修得。

①品質管理とは

②テキスタイルの品質評価

③アパレル製品の品質評価

2年次：アパレルの品質表示の基礎知識を学び、生産管理者に必要なアパレル製品の安全のための法律を学ぶ。

①繊維製品の品質表示

②安全と環境

・「ファッションビジネス概論」

1年次：ファッションビジネスの基礎知識を学び、アパレル産業の歴史構造・製品の

流れ（流通）・様々な職種の知識を修得する。アパレル製品と消費者の関係を理解する。

①ファッションとファッションビジネス

②ファッションビジネスの特性

③ファッションビジネスの変遷

④ファッション産業の構造・流通・生産・職種

2年次：ファッション産業構造の基本的知識を修得する。ファッションビジネスの実務を学び、アパレル企業全般の基礎知識を修得する。

①ファッション産業の構造（テキスタイル産業、アパレル産業、服飾雑貨産業、小売業の構造、繊維ファッション産業を支援する産業と機関）

②ファッションビジネスの実務

（アパレル企業、ファッション小売業の義務と職種、マーケティングの基礎知識）

【専門課程共通】

・「ファッションデザイン画」

ファッションデザイン画における基本的な体型・技術の習得を目指す。

① 基本的な体型～着装時の表現

② オリジナルデザインの発想方法

③ 四季に合わせたアイテムのコーディネートデザインの表現

※学年ごとに描き方や発想方法をレベルアップする。

・「特別活動」

①「学生作品ショー」

⇒団体行動により協調性、社会性、人間性の向上を目指す。

各自で制作した作品を発表し、ステージでの表現方法を考える。

②「ファッションショー見学」

⇒文化服装学院で開催されるファッションショーの見学を通して、自分たちの「学生作品ショー」に活かすための表現方法を学ぶ。

③「校外学習・研修旅行」

⇒団体生活の体験を通して個人、クラスの親睦を深める。

成績評価の基準・方法

（概要）

学修成果の評価は、原則として以下のような方式で行う。（詳細は『2020年度 授業計画』を参照）

・「講義」の授業科目・・・日々の授業の出席状況・授業への取り組み姿勢、学期末試験及びレポート課題での取得点数により、授業内容の理解度をはかる。①「出席率（20%）」および②「試験・レポート（70%）」、③「授業姿勢・理解度（10%）」はそれぞれ5段階評価（A【100～80%】、B【79～60%】、C【59～40%】、D【39～20%】、E【19%以下、不可】）とする。

・「演習・実習」授業科目・・・学年・学期ごとで到達目標として設定されている①「課題作品の完成度（70%）」、②「出席率（20%）」、③「授業姿勢・理解度（10%）」で評価を行う。実習課題の完成度は5段階評価とし、原則として以下の基準で成績を判定する。

A【①：かなり優れた完成度である、工夫がみられる／②・③：100～80%】、B【②：優れた完成度である／②・③：79～60%】、C【①：到達目標に達した完成度である／②・③：59～40%】、D【①：到達目標に及ばない完成度である、②・③：39～20%】、E【①：評価不可・未提出、②・③：19%以下】

※①の判定基準については『2020年度 授業計画』にて課題科目ごとに詳細を記載。

卒業・進級の認定基準
(概要)
<ul style="list-style-type: none"> ● 服飾・家政専門課程 服装科は2年間の課程修了者に対し「専門士」の称号が付与される。服装科の卒業認定および専門士称号付与に必要な要件は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 2年間の課程を修了していること 2. 総授業時数1,800時間以上を履修すること 3. 試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること <p>専門課程に共通して卒業・進級には下記認定条件を満たしている必要がある。</p> <p>【課程修了認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業までの出席日数及び出席時数が70%以上であること ・学年末の成績で「E」判定が1つ以下の成績を修得すること ・課題作品をすべて制作及び提出すること ・全教科の期末試験を受験すること <p>学期末に教職員会議を行い、最終的に学校長の承認を得て卒業認定となる。</p>
学修支援等
(概要)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	6人 (54.5%)	2人 (18.2%)	3人 (27.3%)
(主な就職、業界等) 卸売業、宿泊業			
(就職指導内容) 求人票の案内、就職関係書類の添削・指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 洋裁技術認定試験 初級・中級、ファッション販売能力検定 パターンメイキング技術検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38人	7人	18.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、帰国		

(中退防止・中退者支援のための取組)
 学生との面談

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		専門課程	服飾専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	900単位時間	80 単位時間	20 単位時間	870 単位時間	0 単位時間	10 単位時間
			970単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		5人	5人	1人	3人	4人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要)	
【専門課程服飾専攻科】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語」 <p>留学生を対象として、他の講義・実習等の授業の理解を補助する目的で開講している。副教材を利用して、日本語の文法・文章読解・漢字の読み書きを中心とした基本的な内容から、服飾に関する用語の理解等より専門分野の理解を深めることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「服装造形理論・実習」 <ol style="list-style-type: none"> ① 服装造形の基礎知識の習得。(ニット、皮革などの特殊素材の扱い方、縫製方法) ② 1スタイルのデザイン構成でコーディネートのできる課題作品の縫製。 ③ 各アイテム製作を通し服作りの技術と理論の修得。(服の構造、デザイン表現、作図理論と方法、仮縫い補正方法、素材扱い、縫製方法) <p>セットアップ作品、ニット、皮革を使った作品、ショー作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「服飾手芸」 <ol style="list-style-type: none"> ① 「服装造形理論・実習」にて制作した課題作品とのコーディネートを検討した小物類の製作 ② 課題に適した素材、材料の選択の仕方 ③ フォーマル作品を飾る副資材の選択、作り方、縫製の習得 <p>エプロン、ポーチ、バッグ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ファッションビジネス概論」 <p>ファッションビジネスの実務を学び、アパレル企業全般の基礎知識を修得する。アパレル製品と企業との関係を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ファッションビジネスの実務 <p>(マーチャンダイジング、アパレル生産の基礎知識、ファッション販売)</p> <ol style="list-style-type: none"> ② ビジネス知識 	
【専門課程共通】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ファッションデザイン画」 <p>ファッションデザイン画における基本的な体型・技術の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な体型～着装時の表現 	

<p>② オリジナルデザインの発想方法</p> <p>③ 四季に合わせたアイテムのコーディネートデザインの表現</p> <p>※学年ごとに描き方や発想方法をレベルアップする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別活動」 <p>①「学生作品ショー」</p> <p>⇒団体行動により協調性、社会性、人間性の向上を目指す。 各自で制作した作品を発表し、ステージでの表現方法を考える。</p> <p>②「ファッションショー見学」</p> <p>⇒文化服装学院で開催されるファッションショーの見学を通して、自分たちの「学生作品ショー」に活かすための表現方法を学ぶ。</p> <p>③「校外学習・研修旅行」</p> <p>⇒団体生活の体験を通して個人、クラスの親睦を深める。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学修成果の評価は、原則として以下のような方式で行う。(詳細は『2020年度 授業計画』を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「講義」の授業科目・・・日々の授業の出席状況・授業への取り組み姿勢、学期末試験及びレポート課題での取得点数により、授業内容の理解度をはかる。①「出席率(20%)」および②「試験・レポート(70%)」、③「授業姿勢・理解度(10%)」はそれぞれ5段階評価(A【100~80%】、B【79~60%】、C【59~40%】、D【39~20%】、E【19%以下、不可】)とする。 ・「演習・実習」授業科目・・・学年・学期ごとで到達目標として設定されている①「課題作品の完成度(70%)」、②「出席率(20%)」、③「授業姿勢・理解度(10%)」で評価を行う。実習課題の完成度は5段階評価とし、原則として以下の基準で成績を判定する。 <p>A【①：かなり優れた完成度である、工夫がみられる／②・③：100~80%】、B【②：優れた完成度である／②・③：79~60%】、C【①：到達目標に達した完成度である／②・③：59~40%】、D【①：到達目標に及ばない完成度である、②・③：39~20%】、E【①：評価不可・未提出、②・③：19%以下】</p> <p>※①の判定基準については『2020年度 授業計画』にて課題科目ごとに詳細を記載。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 服飾・家政専門課程 服飾専攻科の卒業認定に必要な要件は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の課程を修了していること 2. 総授業時数900時間以上を履修すること 3. 試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること <p>専門課程に共通して卒業・進級には下記認定条件を満たしている必要がある。</p> <p>【課程修了認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業までの出席日数及び出席時数が70%以上であること ・学年末の成績で「E」判定が1つ以下の成績を修得すること ・課題作品をすべて制作及び提出すること ・全教科の期末試験を受験すること <p>学期末に教職員会議を行い、最終的に学校長の承認を得て卒業認定となる。</p>

学修支援等 (概要)

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	1人 (50%)	1人 (50%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 服飾・縫製関係			
(就職指導内容)			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 洋裁技術認定試験 上級、ファッション販売能力検定 パターンメイキング検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	1人	33.3%
(中途退学の主な理由) 自主都合		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
服装科	200,000 円	324,000 円	163,000 円	施設設備費 教材費 実習費
服飾専攻科	200,000 円	324,000 円	163,000 円	施設設備費 教材費 実習費
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.fashionbunka.jp/college/document.html		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>教育理念・教育活動・学生支援等を自己評価の結果をもとに、「自己評価内容が適切かどうか」「自己評価内容を踏まえた今後の改善策」「職業人育成の具体的方策」「学校運営の改善への具体策」を主な評価項目とし、取りまとめを行う。なお、評価委員会は企業・保護者・卒業生より構成委員を選出し、定数は4名とする。</p> <p>学校関係者評価結果は、理事長が管理を行い改善方策においては次年度4月より順次反映を図っていく。評価結果については、①理事会に諮る、②職員会議に諮る、③学校としての方針や立案を構成し、学生の勉学や就職希望を取り入れながら今後の授業計画やカリキュラムに反映していく。また、卒業生・保護者にも学校の方針や計画についても理解を求めていく。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社 JTB	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日まで	企業等委員
株式会社リスクマネジメント	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日まで	企業等委員
無職	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日まで	保護者・地域住民
無職	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日まで	元教育関係従事者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.fashionbunka.jp/college/document.html		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

<http://www.fashionbunka.jp/>